



学校だより 6月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年5月31日

ぴかぴかな廊下

副校長 八田 安史

風薫る爽やかな五月。新学年になり2ヶ月が過ぎ、6月を迎えようとする子どもたちを木々の緑と重ね、成長を感じています。暑い日が続いたかと思えば、冷たい雨の日があり、体調を崩しやすい気候です。子どもたちの様子を丁寧にみていきます。

廊下掃除

日吉南小学校の廊下を歩いていると、いつもぴかぴかで気持ちよくなります。自分がまだ初任者だったころ、先輩の先生に「教室と教室の間の廊下が一番きれいになるといいね!」と言われたことを思い出します。廊下がきれいになるのは分かるのですが、どうして教室と教室の間なのだろうと考えていると、先輩の先生に「廊下掃除の時、隣のクラスとの境目について、自分のクラスはどこまで掃除をするのか、子どもにどう考えてほしい?」と問われました。隣のクラスにはみ出て掃除をすると、そこは掃除されないということは無くなります。つまり、優しさをはみ出すことができるクラスならば、いつでも隣のクラスとの境がわからないくらいきれいに掃除されているということでした。さらに、隣同士のクラスがお互いに間を優しさで埋めると、そこだけ2回掃除されるのでぴかぴかになるということでした。見た目はそこまで変わらないかもしれませんが、子どもたちにとって教室と教室の間はぴかぴかな場所に見えていました。

自分たちだけでなく、相手に優しさを広げられる人になり、すてきな関係をいろいろな人とつくっていくことができるように、子どもたちを支援していきます。子どもたちだけでなく、自分自身もそうありたいと思っています。

学校教育目標



本校の学校教育目標は「ともに輝け 笑顔いっぱい ふれあいいっぱい ひよみなっ子」です。一人ひとりが笑顔になり、自分も友達も「ともに」輝くために、ふれあいを大切にしたい。新型コロナにより難しいこ

ともありましたが、戻るのではなく前進した「ふれあい」について考えていくことが大切だと思います。

ソーシャルディスタンスが叫ばれていたことにより、ふれあいには実際の距離が関係することを感じた人は多かったと思います。しかし、ふれあいの仕方には様々なかたちがあることに気づき、学校でもいろいろなアプローチでふれあいを大切にしてきました。その中で改めて気付かされたことは、「お互いが相手を思いやる」ことでした。「お互いが相手を思いやる」とは、自分と相手の間をそれぞれが優しさで埋めることだと思います。廊下だけでなく、人と人とのふれあいにも、ぴかぴかに輝く関係をつくっていくということではないでしょうか。

新体力テストでのペア学年での活動は、子どもたちは異学年との関わりで学んだことが多かったようです。今後たてわり活動等でもたくさんのことを学んでほしいと思っています。また、普段の授業でも「お互いが相手を思いやる」ことにより、安心して学べたり、学びが深まったりすると思います。すべての教育活動で意識して伸ばせるようにしていきます。

学校運営協議会

先日、今年度の第1回学校運営協議会を本校で開催いたしました。委員の皆様におかれましては、ご多用の中ありがとうございました。協議会でのお話を拝聴していて、思いやりや優しさがまち全体にネットワークとなって張り巡らされ、温かく学校を見守ってくださるのだと感じました。子どもたちのよりよい成長に向け、今後ご支援をよろしくお願いいたします。



子どもたちが笑顔で輝いていけるように、今後も保護者の皆様、地域の皆様の思いやりや優しさを力に、教育活動を進めていきます。

